二〇一五年七月二四日

子らの絵の灯籠ともる地蔵盆　なつき
爆音を蹴立ててバイク熱帯夜　はく子
コスモスの紅白風に交錯す　あさこ
今日も雨台風一過とはならず　せいじ
対岸の合歓の香を運ぶ風　豆狸
蓮の葉を転落したる亀をかし　さつき
レスキュー隊訓練励む梅雨晴間　さつき
片蔭をジプシーしつゝポストまで　あさこ

二〇一五年七月二三日

夙川の川面にふるゝ枝涼し　満天
家中の窓開け放つ大暑かな　三刀

二〇一五年七月二二日

武家町の掘割めぐる涼み舟　豆狸
真つ白になりたる夫の髪洗ふ　はく子
梅雨明けの売り場がらりと模様変へ　あさこ
大仰に撃たれ伏すなり水鉄砲　さつき
涼風や池へ張り出す四阿に　菜々

二〇一五年七月二一日

サーファーの躍り出でたる波頭　三刀
蝉しぐれみな伏せ目なる六地蔵　ぽんこ
奥院へ矢印の立つ登山道　豆狸
蒲の穂のてんでに揺れてぶつからず　菜々
広き田を掠め掠めてつばくらめ　泰山

二〇一五年七月二〇日

片陰を譲り合ひゆく城下町　さつき
大泣きでみんな引き分け泣き相撲　なつき
夜の更けて海の匂ひの髪洗ふ　よし女
せみしぐれ二重窓とはおもはれず　菜々
下闇にならびたちたる義士の墓　ぽんこ

二〇一五年七月一九日

雲の間に星散りばめて梅雨上がる　菜々
必勝の団扇の母や泣き相撲　なつき
甚平を着て園児らのおおはしゃぎ　こすもす

二〇一五年七月一八日

薬湯の釜は飴色暑に耐ふる　なつき
空蝉の爪に力のあるごとし　満天
空蝉の祈る姿に朝日射す　満天
緑蔭に筆跡ゆかし恩師の碑　菜々
僧堂のすいれん鉢に目高生る　豆狸
大花火盲導犬はみじろがず　治男

毎日句会みのる選・二〇一五年七月二六日